



ちょうふ環境市民懇談会.活動記録

(平成 12～18 年度, ダイジェスト版)

2007年3月

●発行にあたって

都心に近い距離にありながら水と緑に恵まれたまち、それが調布市です。この豊かな自然環境はだれが守っていくのでしょうか？

「行政だけに任せてはいけない、市民も何かしなければ……」という思いはあってもなかなか行動に移せないでいたとき、市民・事業者・行政の話し合いの場として「ちょうふ環境市民懇談会」（以下、単に「懇談会」といいます）が発足し、2000（平成12）年に活動を開始しました。

まず、市内の雑木林、里山の実態を知るための見学会や、入間町崖線樹林地をフィールドとする保全活動グループづくりを進めました。また「懇談会」のプロジェクト活動として、保全活動の担い手を育成する「雑木林塾」の企画運営、先行して活動していた「環境モニター」との連携による「ガイドウォーク」（現在の「調布そぞろ歩き」）の実施、シンポジウムやワークショップの開催など、市民参加の機会を増やしていきました。

7年間の活動は模索と試行錯誤の連続でしたが、それまで皆無だった樹林地保全活動グループが複数結成されるなど、着実に成果をあげてきました。

2006（平成18）年3月、調布市は環境政策の最上位計画として「環境基本計画」を新たに策定し、引き続き市民・事業者・行政が協働で計画を実行していくこととしました。

これを受け、今後に向けてより実効性のある活動へと発展していくことを期して、これまでの活動成果と課題を取りまとめることとし、この「活動記録」を作成しました。ぜひご一読いただき、この小冊子から市民の地道な努力の積み重ねを知っていただきたいと思います。そして一人でも多くの方が環境保全活動に関わってくださることを心から期待しております。

2006（平成18）年度 運営委員長 江刺益子、運営委員一同



●「懇談会」の主な活動

1 「懇談会」の概要

「懇談会」は、調布市が1999（平成11）年3月に策定した「自然環境保全計画」の趣旨を踏まえて、2000（平成12）年11月に設立されました。

それ以前から活動を継続していた市民団体のメンバーらが中心となって設立準備会を立ち上げ、「組織」というような堅苦しい形式を避けて、「参加の場＝機会」として発足させたものです。以来、市民・事業者・行政が協働で調布の自然環境の保全・改善・回復を目指すことをテーマに、「話し合い、活動の交流、情報の収集・発信」を基本とした活動を展開しています。

2 主な活動

(1) 運営会議

毎月1回開催。会則に基づいて選出された運営委員の会議です。「懇談会」の活動方針・活動計画は毎年度、運営会議で立案され、全体会に諮られます。また、活動計画に沿って全体会やプロジェクトの企画運営、「ちょうふの自然だより」の編集などの役割を担っています。

(2) 全体会

年に1回開催。運営委員が中心となって企画運営しています。各団体の活動紹介をはじめ、シンポジウムの開催、自主制作したスライドの上映会など、広く「懇談会」をPRしています。運営委員を公開で選出する場でもあります。

(3) プロジェクトの推進

雑木林の保全活動を担う市民グループの設立や、そこに参加する人材の育成、自然環境に親しむ市民を増やすための取組などを側面支援しています。また、交流イベントの開催、市に対する意見書、提言書の提出などの活動を展開しています。

(4) 「ちょうふの自然だより」発行

2002（平成12）年12月に第1号を発行、以降毎月1回1日に発行しています。市内の自然観察の報告や、各団体の活動報告・活動予定、会議の予定・結果などを掲載した手づくりの通信です。市内の各図書館、地域福祉センター、公民館、文化会館たづくり、市民交流プラザあくろす、市立小中学校などで配布しているほか、市のホームページに掲載されています。2006（平成18）年度末現在、A4判4ページ、発行部数1500部、通巻第75号です。運営委員が編集しています。

(5) 調布市環境フェアへの参加

毎年6月の「環境月間」に開催される「調布市環境フェア」（主催・調布市）に参加し、「懇談会」や関係団体の活動紹介、ミニ体験コーナーなどのブースを出展しています。

(6) 連絡会議

毎月1回開催。活動団体間の情報の交換や交流が主です。現在、この会議は休止しています。

●2000(平成 12)年度 ～設立に向けて

主な出来事	
5月	準備会結成
7月	入間町里山復活作戦を開始
11月	設立シンポジウム開催
	初代運営委員長に尾辻氏を選出
12月	ニュースレター発行
3月	会則施行

1998（平成 10）年 11 月，市民委員と専門家委員で構成する委員会（山道省三会長）が発足し，翌 1999（平成 11）年 3 月，「調布市自然環境保全計画」を策定，調布市長に報告しました。この報告書では，都市と自然が共生する社会の実現を目指して，7 つの推進策が示されました。

「懇談会」は，その推進策の一つとして設立されたものです。市民，事業者，行政の日常的・恒常的な話し合いの場としての，また自然環境に関するシンポジウム・フォーラムなどを開催する機関としての機能を持つことがねらいでした。

2000（平成 12）年 4 月，設立のためのワーキンググループが発足し，翌月，準備会が結成されました。この準備会では，「懇談会」の役割，組織，活動など，全般にわたって討議が重ねられ，11 月の設立へと進んでいきました。また，調布市緑の保全基金を活用して公有化された入間町崖線樹林地をフィールドに，「入間町里山復活作戦」を企画，運営し，設立の起爆剤としました。

「入間町里山復活作戦」は，人の手が入らなくなって年月が経過し，暗い藪と化した崖線樹林地を，本来の雑木林，里山の姿に戻していこうとする取組です。

かつて人々は，生活に利用するため，里山から堆肥や薪を集めていました。このため地域の住民がふだんから手入れを行い，それによって豊かな自然の生態系が維持されていました。

「入間町里山復活作戦」は，まず樹林地内にどのような樹木がどこに何本あるか，不要な樹木はどれかといった調査活動から始まり，やがて有志が世話人会を発足させ，自主的に維持管理しながら，樹林地全体の将来像を描き，現在の「入間・樹林の会」へと発展していきます。

11 月 12 日，「懇談会」の設立シンポジウムを開催し，約 50 名が参加しました。自然環境保全に取り組んできた市民団体や学校からの報告，基調講演，「懇談会」のあり方などについての意見交換などを行い，また，このシンポジウムを受けて，情報交換や情報提供，活動の企画や意見調整を行う「連絡調整会議」を設置することとし，11 月 29 日，第 1 回の会議を開催しました。

翌 12 月には「ニュースレター」第 1 号を発行し，「懇談会」設立の動向などを広く紹介しました。当時は A4 判 2 ページの簡素なものでしたが，その後毎月発行され，現在の「ちょうふの自然だより」へと拡充されていきます。また 12 月の連絡調整会議で，会の名称を「ちょうふ環境市民懇談会」とすることが決定しました。

2001（平成 13）年 3 月 6 日，正式に会則を制定しました。

●2001(平成 13)年度

主な出来事	
6月	調布市環境フェアに出展 ニューズレターの編集に市民が加わり、紙面拡充
7月	雑木林塾開講
10月	中間ワークショップ開催
2月	第1回全体会開催

2001（平成 13）年 4 月以降、「連絡調整会議」は「連絡会議」と名称を改め、環境モニター、入間・樹林の会、野川里山探検隊、こどもエコクラブ、田んぼの学校、雑木林塾、ねこじゃらし、凸凹山（布田崖線緑地）ワークショップなどの活動報告や、ニューズレターの編集、全体会の立案などをテーマに、毎月 1 回開催しました。

6 月、調布市が主催する「調布市環境フェア」に出展し、「懇談会」を PR しました。また、ニューズレターの編集に市民が加わるようになり、紙面も 4 ページに拡充されて情報量が増え、「協働」の実践が進みました。

さらに、プロジェクトとして「雑木林塾」を企画、7 月に開講しました。「雑木林塾」は、自然環境の保全に関心がありながら、なかなか実践に踏み出せずにいる方々のために、基礎的な知識と技術を身につけてもらい、市民主体の環境保全活動を広げていくための講座です。11 月の都立長沼公園での見学を皮切りに、全 6 回の連続講座を開催しました。

「懇談会」としての初めての全体会・シンポジウムを 2 月に控え、中間のワークショップを 10 月に開催しました。このワークショップでは、調布の自然環境に関するさまざまな課題について、より多くの市民と共有化を図りました。

2 月の全体会・シンポジウムでは、プロジェクトとして実施した「雑木林塾」の活動報告や、パネル展示、スライド上映、パネルディスカッションを行うとともに、次期運営委員を選出しました。この日のために製作したスライド「調布里山物語」は、その後の環境学習にも活用できるようにと企画された力作でした。約 50 名が参加しました。

またこの年には、「懇談会」のメーリングリストを作成し、Eメールを活用して日常的なコミュニケーション、情報交換を可能にしました。



雑木林塾の企画・開催



2 月、全体会・シンポジウムの開催

●2002(平成 14)年度

主な出来事	
5月	国分寺崖線ウォーク開催
6月	調布市環境フェアに出展
	臨時会議開催
10月	雑木林塾開講
11月	入間・樹林の会と野川・里山探検隊が合同イベント
2月	第2回全体会開催

設立準備会からほぼ2年が経過しました。「懇談会」の運営とそれぞれの団体での活動とを両立させていくことが、次第に重荷に感じられるようになるころでもありました。そのような中で見えてくる課題がありました。

「懇談会」は誰のための、誰が進める活動なのか、プロジェクトとは何か、パートナーシップとは何か、役割分担はどうなっていてどうすべきなのか。こうした悩みを抱えながら、設立当時に立ち返って整理しなおすことになりました。

2002（平成14）年2月の全体会で選出された運営委員が中心となって、課題を整理しながら、目的や取組方針を確認していきました。また、臨時会議を開催するなどして「今後の懇談会のあり方」を議論しました。以降、断続的にこのテーマが取り上げられるようになり、現在に至っています。

一方、5月には入間・樹林の会との共催で「国分寺崖線ウォーク」を開催。せたがやトラスト協会との交流事業を行いました。

また前年度に引き続き、プロジェクトとして雑木林塾を展開しました。前年度の受講者が運営に参加し、「雑木林塾運営会議」が発足しました。5月から企画やフィールド調査を行い、10月に開講、6回の連続講座を開催しました。

2月8日、「今なぜ雑木林なのか」をテーマに、第2回全体会を開催しました。関係団体によるそれぞれの活動紹介、横山譲二氏を講師に迎えての基調講演「雑木林の自然について」に続き、市民から選出されたコーディネーターとパネラーによるパネルディスカッションを開催、約60名の参加が得られました。また、その場で次期運営委員を選出しました。



前年度受講者が参加した雑木林塾運営会議による雑木林塾の企画・運営

●2003(平成 15)年度

主な出来事	
6 月	調布市環境フェアに出展 運営会議発足
9 月	雑木林塾開講
2 月	第 3 回全体会開催 ミニ勉強会開催

2003 (平成 15) 年度は、前年度に引き続き、「懇談会」のしくみをあらためて確認し合い、認識のずれを修正しました。その結果、連絡会議とは別に新たに「運営会議」を設け、毎月 1 回開催することとしました。

「懇談会」は、1999 (平成 11) 年の「調布市自然環境保全計画」に基づいて、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、市民・事業者・行政が「話し合い・活動の交流・情報の収集や発信」などの活動を、協働で進めていくために発足した「場」です。

それまでの連絡会議は、どちらかという市民同士、団体同士の活動報告や情報交換が主でした。共通課題の解決に向けた取組やプロジェクトの推進については、運営委員による「運営会議」で話し合うことになりました。

毎月発行しているニュースレターも、一部の有志と環境保全課担当者で編集・発行していましたが、より多くの市民が発行に関わっていくため、10 月号 (通巻第 23 号) 以降は、紙面の作成を分担することにしました。

また、プロジェクトとしての雑木林塾は、前年度と同様、受講経験者らによる「雑木林塾運営会議」が企画、運営しました。

第 3 回全体会では、「お互いに顔の見える全体会」を基本理念として第 1 回の全体会で好評だった「調布里山物語」を再上映。また、クイズや稲わらの縄^な織い工作などのお楽しみ企画や、賞品、どんぐりクッキー、笹茶なども用意して、一般の市民が親しみやすい内容に工夫しました。約 70 名が参加しました。

2 月の連絡会議では、わが国の森林、緑の状況を知るためのミニ勉強会を開きました。



2 月、第 3 回全体会開催



全体会での「稲わらの縄^な織い工作」

●2004(平成 16)年度

主な出来事	
6月	調布市環境フェアに出展
8月	ニュースレターを「ちょうふの自然だより」に名称変更
9月	雑木林塾開講
2月	第4回全体会開催
3月	調布市環境保全審議会が、「調布市環境管理計画」の見直しに関する答申

「懇談会」の活動やイベント開催情報などを広く市民に伝えようと、掲示板を市内8箇所に設置する計画で、試作品を製作しました。市内樹林地の木材を使用した労作でしたが、作業が想像以上にたいへんであることが分かり、試作品1枚を展示用に活用するということにして、計画終了としました。

かねてより、ニュースレターのタイトルを身近なものにしたいという意見があり、調布市環境フェアの出展に合わせて一般市民から新しいタイトルを募集するなどして、8月号(通巻第45号)から「ちょうふの自然だより」と名称変更して発行することとしました。

市民同士、団体同士の活動報告や情報交換の場である「連絡会議」は、参加者の減少傾向が課題となりました。

第4回全体会では、「未来に残そう調布の自然を」をテーマに、稲縄な蒟ない、シュロ縄な蒟ない、クイズラリー、丸太切りのほか、キクイモのきんぴらやアマチャヅル茶を用意するなど、前回同様、一般の市民が楽しめる内容としました。約60名が参加しました。

一方、調布市では、1995(平成7)年3月に策定した「調布市環境管理計画」から10年が経過し、当時の予測を上回る人口の増加や、市民活動の充実などの状況変化に対応するため、新たな「環境基本計画」を策定することとなりました。この計画は調布市の環境政策の最上位に位置づけられるもので、「懇談会」は、その策定に大きな役割を果たすこととなります。



「懇談会」の活動内容などを知らせる掲示板の設置



2月に開催した第4回全体会での「丸太切り」

●2005(平成 17)年度

主な出来事	
5月	新「環境基本計画」策定に対する市民意見の集約に向けたワークショップ開催
6月	調布市環境フェアに出展
	新「環境基本計画」策定委員に江刺氏を選出
	新「環境基本計画」に関し7項目の提案を提出
12月	新「環境基本計画」案に対し意見書提出
2月	第5回全体会開催
3月	市民力アップ講座開催
	新「環境基本計画」策定

前年度3月に、調布市長の附属機関である調布市環境保全審議会が、「環境管理計画」の見直しを答申しました。これを受けて、新たな環境基本計画が策定されることとなり、「懇談会」からは江刺氏が策定委員会に加わりました。

策定作業は急ピッチで進められ、運営会議は市民意見の集約やパブリックコメントの提出など、これまでになく多忙な一年となりました。

まず過去の資料などから854件に及ぶ市民意見を抽出し、2回のワークショップを経て6月下旬、策定委員会に対し①樹木の保全、②水辺環境の保全、③湧水の保全、④農地の保全、⑤制度で環境保全をすること、⑥環境教育、環境保全活動などの実践、⑦パートナーシップの充実、の7項目にわたる提案を行いました。

さらに、12月に発表された中間報告とパブリックコメントの募集に対し、9点にわたる意見を表明しました。

3月に発表された新「環境基本計画」では、「懇談会」からの意見はほぼ網羅され、2006(平成18)年度からの施策展開に反映されることとなりました。

2月11日、「みんなで話そう、ちょうふの自然」をテーマに、第5回全体会を開催しました。関係団体が展示パネルでそれぞれの活動を紹介したほか、鬼頭秀一氏を講師に迎えての講演「都市近郊の環境保全と市民活動」に続き、だれでも参加できる形で「～調布のみず・みどり・景観～ 私はこうしたい」のタイトルで討論会を開催しました。講演会には約50名、討論会には約30名が参加しました。

また、市民のコーディネート能力の向上を図るため、市民力アップ講座を3月7日・16日の2回にわたって開催しました。実践者を講師に招いて、会議の企画や進行の具体的なアドバイスや実践の講習を受けました。



「懇談会」の意見が反映された「調布市環境基本計画」(図は概要版)



2月、第5回全体会開催

●2006(平成 18)年度

主な出来事	
6月	調布市環境フェアに出展
10月	野外イベント「歩いて見て食べて知る雑木林の恵み」を環境モニター「調布そぞろ歩き」とタイアップして開催
11~3月	これまでの懇談会の成果、課題の整理
3月	全体会開催 (雑木林市民交流会との併催)

「環境基本計画」が策定されたことにより、「懇談会」も新たな局面を迎えることになり、会のあり方そのものを見直すこととし、運営会議で議論を継続していきました。

6月、調布市が主催する「調布市環境フェア」で、フェア来場者の丸太切り体験や、植物の葉の違いを見比べてもらう「プチ違い」、「葉書の木」と呼ばれるタラヨウの葉に傷を付けて字を書いてもらうなどのコーナーを企画、出展しました。

また、「ちょうふの自然だより」のバックナンバーや、調布市の各地で行われている自然保全活動を紹介したパネルを展示し、「懇談会」と調布市における自然保全活動をPRしました。

10月、「懇談会」が企画して、深大寺自然広場(通称カニ山)周辺で雑木林の体験イベント「歩いて見て食べて知る、雑木林の恵み」を開催しました。野外イベントは初めての試みで、調布市が主催する「調布そぞろ歩き」とタイアップしての開催でした。

スタッフを含め50人以上が参加し、古い農家やゆう水の見学、カニ山での薪やスタジイ集め、薪を使って炊いた調布産のお米を食べる、拾ったドングリでキーホルダーを作るなど、大人から子どもまで、みんなが楽しめるイベントになりました。アンケートではおおむねよい評価が得られましたが、反省点もあり、次回開催に活かしていくこととしました。



6月、調布市環境フェアに出展
(写真はプチ違い)



10月、野外イベントを開催
(写真は調布産のお米を食べる)

●成果と課題

1. 成果

●市民と行政の協働の取組を実践

「懇談会」が設立される以前は、調布市の環境問題や環境政策について市民と行政が定例的に話し合う場や、協働で取組などを行う場がありませんでした。「懇談会」の設置によって、市民と行政による協働の取組が促進されるようになりました。

●環境保全に関わる市民活動の芽を育成

設立当初は、調布市内で環境保全活動に関わる市民団体はほとんどありませんでしたが、運営会議等での意見交換や提案の中から雑木林塾や環境リーダー養成講座等の事業が実施されることとなり、その修了生が中心となって、カニ山の会や若葉町3丁目第3緑地などの保全活動が展開されるようになりました。

●検討委員会等への参加を通じて行政施策へ提言

2005（平成 17）年度、調布市環境基本計画が策定されることとなり、「懇談会」では5年間の活動から見えてきた課題を分析し、「調布市環境管理計画の見直しに関するちょうふ環境市民懇談会からの提案」を提出しました。また、12月に発表された環境基本計画案の中間報告に対する意見を表明。

これらの活動が実を結び、「懇談会」からの提案は環境基本計画に数多く取り入れられました（深大寺、佐須地区の保全・モデル事業計画、2万人サポーター制度などの数値目標等）。

●市民力の向上

「懇談会」の事務局は、環境保全課と委託事業者がサポートしていますが、実質的な企画・運営は市民委員が行うようになるなど、市民側の力量は確実に向上しています。



2. 課題

●「調布市環境基本計画」の実現に向けて

「調布市環境基本計画」には、施策の内容、成果指標、数値目標など、「懇談会」からの意見、提案が多く盛り込まれました。2万人サポーター計画や、市民活動の拠点となる（仮称）環境市民センターの設置、進行管理などです。

計画では、その推進体制として地域の活動団体、個人、事業者らのネットワークで構成する総合的組織の参加が示されており、また進行管理についても市民参加によるチェックの仕組みを検討することとされていますが、今のところ具体的なものはまだ何も決まっていない状況です。

市民がこの計画にどのような形で参画していくのか、また「懇談会」として今後どのように関わっていくのか、計画の実現に向けた「協働」のあり方を検討し、早期に合意形成を図っていくことが課題です。

●パートナーシップの確立・市民力のさらなる向上

「環境基本計画」の実現に向けた取組を進めていくためには、パートナーシップの確立によって、市民・事業者・行政が適切に役割を分担していかなければなりません。

「懇談会」はプロジェクトの企画・運営をはじめとして、7年間に及ぶ多くの活動実績を有していますが、行政側はこれらを「環境学習支援」と位置づけており、「懇談会」には自主的な財源さえありません。「市民は支援される側」「行政は支援する側」という構図が浮き彫りになっています。このような現状を変えていかなければ、先を見通した継続的な活動を組み立てていくことは困難です。

一方、市民の側も「協働」に必要な企画力、実践力、調整能力などを向上させることが必要です。たとえば、現在「懇談会」の事務局機能は行政側が担っています。そして行政はその運営支援を第三者に委託しています。こうしたところを市民が担えるようになれば、「協働」の核として、より多くの役割とより重い責任を果たせることでしょう。各種のプロジェクトを推進する中で、次第に市民が担っていく部分を広げ、市民力のさらなる向上を目指していかなければなりません。

「環境基本計画」の実現のためには、市民・行政双方がこれまでの成果と課題、今後の役割分担を確認し合い、「協働」「パートナーシップ」の共通認識を土台に据えていくことが必要です。



●懇談会の今後に向けて

「懇談会」はだれでも参加できるという建前ですが、1999（平成11）年3月に策定された「調布市自然環境保全計画」の趣旨を踏まえて設立されたため、自然環境以外の分野からの参加がありませんでした。しかし新たな「環境基本計画」は、自然環境だけでなく、景観、エネルギー、公害、生活環境など、さまざまな分野を取り扱っています。「環境基本計画」の実現に向けて協働で取り組んでいくためには、「懇談会」の間口を広げていくことも検討しなければならない課題です。

また「懇談会」は、設立当時の考え方を継承して、組織ではなく話し合いの場としています。そこでの意見は所属している団体を代表するものではなく、個人の見解とするルールになっています。このことが「懇談会」の果たすべき役割と参加のあり方にギャップを生み、参加する人、参加しない人、どちらにとっても分かりにくく、混乱を招く一因になっています。制定されて以来一度も改定されてこなかった会則が、現状や課題の解決に対応できなくなっている現われと言えるでしょう。

さらに、プロジェクトの企画運営にかかる負担が一部の参加者に偏り、そうした人たちの間で疲弊感が強くなるなど、「懇談会」の活動も大きな岐路に立たされています。

このようなことから今後に向けて、「懇談会」のあり方そのものを抜本的に見直すことが急務となっています。

●終わりに

この活動記録はダイジェスト版として一般の方に向けて発行するものですが、7年間の活動を続けてきた私たちにとっても貴重な資料です。4月以降、加筆修正を加えて詳細版を作成することとしていますが、ご関心のある方はぜひそちらもお読みください。

新しく生まれ変わろうとしている「懇談会」が、ますます充実したものとなるよう、みなさまの一層のお力添えをお願い申し上げます。

末尾ながら、関係各位のこれまでのご尽力に敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

2007（平成19）年3月

運営委員長 江刺益子

運営委員 安部宝根 尾辻義和 鍛冶直美
小林冬樹 近藤光弘 里 厚雄



ちょうふ環境市民懇談会 活動記録（ダイジェスト版）

<参考資料>

2001.3.6 策定

ちょうふ環境市民懇談会 会則

この会は、調布市内の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集・発信等」といった活動を、パートナーシップをもとに進める“場”として設立します。

（名称）

第1条 この会の名称は「ちょうふ環境市民懇談会」とします。

（目的）

第2条 この会は、市民、事業者、行政のパートナーシップにより、今ある自然を大切にしながら全市的に自然環境を保全・改善・回復し、人と自然との多様なかわりを工夫し、自然と共生する調布をつくることを目的とします。

（基本方針）

第3条 この会は、目的を達成するために次の基本方針を掲げます。

1. パートナーシップによる推進のしくみづくり
2. 生物環境の核をつくり、つなげ、輪を広げる
3. 人と自然との多様なかわりを育む

（活動）

- 第4条
1. この会は、基本方針を基に次の活動を行います。
 - ・パートナーシップにより自然環境の保全・改善・回復を行う
 - ・調布の自然環境保全等にかかわるプロジェクトを推進する
 - ・市民・事業者・行政の日常的な話し合いの場を設置する
 2. これらの活動を円滑に進めるために、連絡会議を定期的開催します。
 3. 以下のことをおこなうため、全体会を年に1回以上開催します。
 - ・この会の活動報告を行う
 - ・この会の運営委員を選出する

（会員）

第5条 この会の目的を理解し、賛同する者は誰でも会員になることができます。この会への加入、脱退は個人の自由意思とします。

（会費）

第6条 この会は原則、会費の徴収は行いません。また、この会はボランティア活動を原則とします。

（運営）

第7条 この会の運営は、別に定めるルールに基づいて進めます。

（運営委員）

第8条 会の運営を円滑に行うため、若干名の運営委員を選出します。

1. 会員の中から運営委員及び運営委員長を選任する
2. 運営委員は、会の活動等に関する諸事項につき責任を持ってその任にあたる
3. 運営委員の任期は1年とする

（その他）

第9条 この会の会則に定めるものの他、必要な事項等は、会員の合意を経て決定します。

付則 2001年3月6日より施行します。

■お問い合わせ先：調布市環境部環境保全課

TEL：042-481-7086

電子メールアドレス：kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

●ちょうふ環境市民懇談会のあゆみ(1999～2007) + ちょうふ環境市民会議への移行年表 (2008+2009 加筆)

年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
出来事 【市民】	・環境モニターが2000年の調布を調査	・環境モニターが2000年の調布マップ・冊子・CDを小学校に配布 ・環境市民懇談会準備会結成 ・入間町里山復活作戦を開始 ・環境市民懇談会設立シンポジウム(11・12) ・(仮)環境市民懇談会連絡調整会議・会則施行	・ニューズレターの市民編集を開始 ・連絡調整会議を毎月開催(有志)	・国分寺崖線ウォーク開催 ・臨時会議開催 ・雑木林塾市民が企画運営	・運営会議発足(運営委員長) ・調布市環境フェアに出展 ・ミニ勉強会開催 ・第3回全体会開催	・調布市環境フェアに出展 ・第4回全体会開催 ・ニューズレター名称変更「ちょうふの自然だより」	・調布市環境フェアに出展 ・新環境基本計画策定に対する市民意見の集約に向けたワークショップ開催 ・意見提出 ・第5回全体会開催	・調布市環境フェアに出展 ・第6回全体会(雑木林市民交流会と併催) ・野外イベント「歩いて見て食べて知る雑木林の恵み」を環境モニター「調布そぞろ歩き」とタイアップして開催 ・これまでの懇談会の成果・課題の整理	・調布の自然だより80号発行(8月) ・環境フェア出展	・環境市民会議準備会発足 ・3・15交流イベント企画運営	・ちょうふ環境市民会議設立 ・環境学習・交流事業受託
出来事 【調布市】	・調布市自然環境保全計画策定	・「ニューズレター環境市民懇談会からのお知らせ」発行	・雑木林塾 開始	・雑木林塾	・雑木林塾	・雑木林塾開講 ・調布市環境保全審議「調布市環境管理計画」の見直しに関する答申	・新「環境基本計画」策定	・雑木林塾 ・全体会開催(雑木林市民交流会との併催)	・雑木林塾(外部委託)	・雑木林塾(外部委託)	・雑木林塾(市民会議に委託)



ちょうふ環境市民懇談会 活動記録

(平成 12～18 年度, ダイジェスト版)

2007 年 3 月

発行・編集 : ちょうふ環境市民懇談会

印刷 : 株式会社 ニデア